

# わたしの 歩んだ道

Vol.20

えさき しゅん  
江崎 駿さん

春日井市在住。市内の公共施設を拠点に活動するボッチャチーム「Brex(ビーレックス)」に所属しながら、日本代表として重度四肢機能障がいのある選手が競技を行う「BC4」のクラスにおいて、東京2020パラリンピック出場が有力視される期待の18歳



## 先輩の勧めで始めたボッチャ

ボッチャは白い的球に自分のボールをどれだけ近づけられるかを競う競技で、世界40か国以上に普及しています。僕が出会ったのは中学一年生の夏。学校の授業で初めて触れました。障がいの有無に関係なく楽しめることや、戦略性の高さに興味を持ちました。学校の先輩が県のボッチャ協会に所属しており、その先輩の勧めで、秋から協会の練習に参加するようになり、本格的にボッチャを始めました。

## ボッチャチーム「Brex」を結成

練習の中でできた仲間と、チーム「Brex」を結成しました。チーム名はみんなで考え、ボッチャの「B」と、ラテン語で王者の意味を持つ「rex」を合わせました。南部ふれあいセンターやサン・アピリティーズ春日井などを拠点に練習しています。

## 敗北を糧に、練習を重ね前進

初めての大会の初戦で対戦したのは、なんとボッチャを勧めてくれた先輩でした。結果は敗戦。とても悔しかったですが、その後体

育館や自宅で一生懸命練習を重ね、徐々に大会で勝てるようになり、高校2年生の時には全日本選手権で2位になるなど、よりボッチャの楽しさを知っていきました。

## 外国人選手と戦い、

## さらに成長

大会で勝ち進む中で、日本代表の強化選手に選ばれ、国際大会にも出場するようになりました。海外の選手はパワーがあり、国内での戦い方が全く通用せず負けることもありました。今のままでは勝てないと痛感し、より深くボッチャを考えるようになりました。その経験によって選手として成長し、昨年は全日本選手権で優勝することができました。

## 春日井市は暮らしやすく、

## 練習にも適した環境

春日井市はいろいろな店があるなど、何でもあつて暮らしやすいまちだと感じます。何より体育館が多く、練習に困ることがない。「練習場所がない」と言う他の地区の選手の話を聞くと、恵まれていると感じます。これからも、春日井で暮らし続けたいと思っています。

## 五輪でメダルを取って

## 春日井に歓喜を

前回のリオデジャネイロパラリンピックで、日本代表として一緒に練習していた選手が銀メダルを獲得した場面をテレビで見た時、自分もいつかあの場に立ち、メダルを取りたいという思いが強く芽生えました。今は国際大会を重ねる中で海外選手とも互角に勝負できようになり、メダルのチャンスもあると感じています。東京2020パラリンピックに出場してメダルを取って、春日井に歓喜を届けたいと思っています。



## 夢をかなえるために

夢をかなえるためには、まずは夢を持つことが大切。夢を持つと、取り組むべき課題がはっきりしますし、続けるモチベーションにもなります。自分が信じた道を、迷わず突き進んでください。